

養護教諭の行う舌診を加えたフィジカルアセスメント

大野 泰子

要旨

養護教諭は児童生徒の養護をつかさどる職務において、保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動などの役割を行っている。近年、学校において救急処置の対応における専門性を求められる事故がおきており、保健管理における専門的な判断力が一層必要となっている。養護教諭における専門的判断とは、医学的な知識と共に、主訴に対するアセスメントと対象全体の観察力による総合的な判断である。誰でも簡単に器具が必要ではなくできる、五感で感じる観察力の一つとして、東洋医学における対象全体を見る舌診に視点を当て、看護学の授業において講義と演習を行った。学生の生活習慣の問診と舌診の観察における現れ方に関係性がみられ、有効な観察項目であることが実証された。

今後は、保健室における児童生徒の対応において、子どもの心身を観る舌診を取り入れたフィジカルアセスメントの実践化に向けて取り組んでいきたい。

キーワード：養護診断，舌診，健康観察

はじめに

今日学校における保健室来室者の対応は、養護教諭にとって看護的能力、医学的知識を問われる職務の一つであり、その専門性がますます期待されている。保健室では外科的、内科的対応である場合や心因性の支援を求められる対応など、多様な健康相談の対応窓口でもある。さらに特別な健康支援の求められる在籍児童生徒の対応はどの校種においてもあり、在籍者の健康情報管理はもとより、危機管理的対応システムの構築と実働性の如何も、学校経営において重要な事柄であるといえる。

養護教諭が行う学校看護は病院看護・地域看護とは異なり、ほとんどの養護教諭が一人勤務であり、多様な対応に対し正確な判断のできるスキルを求められる専門家である。

そこで、精度の高い養護診断能力を常に身に着けておくことは重要な研修内容であると考え、従来の観察項目に追加して、簡易にできる東洋医学において基礎観察項目である「舌診」を取り入れたフィジカルアセスメントに注目し、学生の授業演習に取り入れアセスメントの向上にむけた考察を行った。

1. 研究の方法

東洋医学における心身の観察について、文献から考察を行い、養護教諭がおこなう保健室における養護診断の一要素に取り入れる。その観察項目を学生に授業で実施させ、実習記録から

有効性を確認する。学生の演習は、舌の観察に対し本人の同意を得られる状況下において実施する。

2. 心身の観察について

2・1. 東洋医学における心身の観察方法

寺澤¹⁾の著書によると、東洋医学は「心」と「身体」は不可分なものとしてとらえる医学体系であると説明している。自覚症状を最大限に組み上げる医療体系であり、生体の恒常性の維持や原因の除去に主眼においている西洋医学とは異なった考え方である。さらに、病気の見方が異なる東洋・西洋の医学を臨床の場で活用し、治療効果をもたらすことを目的として「和漢診療学」があり、特徴ある望診（観察）方法—機械、器具を使わず、五感などを駆使して行う—を特徴ある捉え方として解説している。

原ら²⁾は、同様に「中医学診断」として、望（視診）・聞（声を聴き匂いをかぐ）・問（自覚症状・家族病歴・遺伝関係・職業その他を問診）・切（触診）という方法（四診）で進めると述べている。この四つの方法の中で特に特徴的なものを「能合脈色可以万全」といい、「脈診と望診をうまく行うといずれの難病の診断もできる」と中国の最古医学書『黄帝内経』にすでに書かれ何千年来の医療で実証されていると述べている。望診は患者全体を動作や容姿、表情、皮膚や舌の観察があるが、特に舌は人体の重要な器官で、食事や会話をするために欠くことができないばかりでなく、内臓の状態を映し出す鏡であるという。そして舌像は経絡（人体の各組織の構造と機能の調節）、臟腑、気、血、津液（しんえき：血液以外の体液）などの体内の様々なメッセージを伝えていると解説している。

2・1・1. 舌の構造と舌像

舌は横紋筋からなる器官で、舌体の表面は粘膜で覆われ多くの舌乳頭という隆起がある。内部の毛細血管による「舌色」を呈し、舌表面の糸状乳頭が脱落、粘液、老廃物、食物残渣、細菌などにより「舌苔」になる。舌の裏側にある静脈は「舌脈」といい、舌の運動は脳神経に支配されている。

「舌象」とは、舌の形態は全身の栄養状態を表し、水液代謝にかかわっている。舌色は血液や血液循環機能を表し、舌苔の厚さは病状の軽重変化により変わり、舌苔の色は病気の気質を表す。舌脈には循環器系の瘀血（循環器系）状況があらわれる。

「経絡」とは経脈と絡脈をいい、中医において代謝物の通り道として考えられ経路体系の主体をなし、経脈は縦の脈、絡脈は横の脈をいい、経脈から分かれて全身に分布する。経絡は気血を運行させて人体の各組織を温養させることで、人体の各組織の構造と機能が調整されて人体の有機的なまとまりとなっていると説明されている。表1、図1に示す舌の部位と内臓の関係が示されている。舌尖(舌の前)は心肺の機能にかかわり、舌中は脾胃の機能にかかわる。舌辺(舌の両側)は肝胆にかかわり、舌根は腎大腸にかかわる。また舌下は心脈(心臓の血管)にかかわり、舌像において「心」と「脾胃」が最も重要とされている。

表1 舌の部位と関連する内臓²⁾

部位名	舌の部位	内臓の関係
舌尖	舌の前	心肺機能
舌中	舌中央	脾胃(消化器)
舌辺	舌の両側	肝臓胆嚢
舌根	舌の付根	腎臓、大腸
舌下	舌下	心臓血管



図1 舌の部位²⁾

2・1・2. 舌と病状

舌象は病理の判断と病気の進展、予測に参考にされ、生理機能と病理変化に応じて変化するので、頻繁に観察する必要がある。

「舌は心の苗」と呼ばれ、中医学では循環器の働きと精神活動をまとめる脳神経（神明）の二つをいう。心の陽気が低下すると循環器のうっ血をおこし、舌色は薄い青紫色になり、心神不安を招き動悸、不眠、夢などの症状を呈し、舌も舌尖の赤味や、舌乳頭の拡張により荒れた状態を呈す。

また「舌は脾胃の現れ（外候）」と言われ、消化栄養機能に関与していて全身栄養が不足する状態になると、舌苔が厚くなり、逆に栄養が欠乏すると舌辺に歯痕がみられ舌がやせて舌色も薄くなる。舌苔は病気の予測にもなるといわれている。舌診のポイントは以下のとおりである。

表2 舌診のポイント³⁾

	変化	生理機能及び病理変化	説明	
舌体の形態・舌脈	大	赤腫れ	炎症、充血	
		淡胖大	水毒	
	小	赤やせ	陰虚	
		淡やせ	血虚	
	老	実証	体の働きが弱い病気の総称	
	嫩	虚証		
	裂紋	栄養不良	活力低下、頭痛、めまい、悪心 循環障害	
	歯痕	気虚水毒		
	舌歪斜	経絡障害		
	乾燥	陰虚		
	潤滑	痰、湿		
	舌脈	瘀血		
舌苔の性質・色	薄苔	正常	食欲不振、嘔吐、 体液の循環障害、痰、水腫、浮腫 舌苔が粘つく 寒気、手足の冷え、嘔吐、水便 熱函、体温上昇、炎症 毒となる原因	
	厚苔	胃気、邪気とも盛んな実証		
	膩苔	痰、湿虚		
	剥苔	胃気虚弱		
	白	寒証		
	黄	熱証		
	灰、黒	邪毒が強い		
舌体の色	薄赤	正常	熱を生じ、ほてり、寝汗、興奮 寒さのためにおこる病気 不眠、精神不穩、筋痛、腰痛、便秘	
	赤	熱、陰虚		
	白	寒、自虚		
	青、紫	瘀血		

●望舌の注意事項⁴⁾

- ① 舌の形、舌苔、舌色、舌脈の色、長さ、太さを観察する。
- ② 観察は舌先をやや下向け自然に伸ばし、舌体を十分出させる。裏側は舌先を上を立て口を大きく開口させる。
- ③ 食後 30 分以上経過している。
- ④ 舌苔の色が特殊な場合は、有色の食物や医薬品の摂取を問診する。
- ⑤ 自然光の中で行うが、直射日光は避ける。有色光線の前では行わない。
- ⑥ 他の症状と併せて総合的に分析する。

2・2．養護教諭の教科看護学での学び

2・2・1．授業概要から

学校看護における、保健室でおこなう応急処置の観点から、フィジカルアセスメントには正常な身体状態、正常な解剖・生理、子どもの成長・発達を知ることから始まる。

通常教育系養護教諭教育において、教職員免許法施行規則第9条、10条における養護教諭養成カリキュラム⁵⁾では養護に関する科目（基礎となる科目）は解剖生理学2単位、微生物学、免疫学、薬理概論のくくりで2単位を基礎教養の学年で学び、看護学は2～3年生で専門科目として臨床実習及び救急処置を含み10単位とされており、養護に関する科目については1種免、2種免の違いは4単位である。その内訳は、衛生学、公衆衛生学が2種免では半分の2単位、学校保健、養護概説も半分の1単位となっており、教職に関する科目は7単位の差に比して、養護教諭の専門性としていわれる科目については免許に関係なく必要な求められる科目となっている。本学（2013年）においては下記のような単位取得カリキュラムの専門知識は確保されている。

表3 養護教諭養成カリキュラム⁵⁾

教育職員免許法施行規則第9条			
養護に関する科目	1種免許	2種免許	本学
衛生学及び公衆衛生学(含予防医学)	4	2	2
学校保健	2	1	2
養護概説	2	1	2
健康相談活動の理論及び方法	2	2	2
栄養学	2	2	2
解剖学及び生理学	2	2	2
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	2	4
精神保健	2	2	2
看護学(含臨床実習及び救急処置)	10	10	10
計	28	24	28

2・2・2．本学での看護教育の状況

本学の看護学10単位は⁶⁾、看護学Ⅰ（2単位）、看護学Ⅱ（2単位）、看護学実習Ⅰ（2単位）、看護学実習Ⅱ（2単位）、臨床看護学実習（2単位）であり、この他日本赤十字救急員救急法講座（3日）、同幼児救急法講座（2日）、特別支援学校見学実習（1日）が組み立てられている。

教科「看護学Ⅰ」においては、授業のテーマをフィジカルアセスメントが行えるようになっており、基礎看護技術の取得から応急処置ができることを目的に授業が組み立てられている。授業計画の前半では学校看護のとらえ方と各ライフサイクルによる看護とは何か、バイタルサインの基礎知識や技術からフィジカルアセスメントを学び、講義の後半では、保健室で対応することの多い症状を中心に授業内容を組んでいる。また、特別な対応の必要な子どもの看護や、子どもや保護者の精神的支援について内容を追加している。

「看護学Ⅱ」においては、疾患の知識と看護、養護を解説し、子どもの訴えや観察から緊急性を見極めや留意すべき学校看護の対応・判断ができるような授業構成の工夫を行っている。子どもの罹患しやすい疾病や感染症、外傷を中心に、医療における看護と学校における看護・養護の両面から病気の子どもの理解を深めるよう、写真やDVDなどを使い講義を行っている。

「看護学実習Ⅰ」ではフィジカルアセスメントを復習し、衛生的な環境作り、感染症予防、安楽な体位、車椅子、包帯法、三角布、罨法、食事排泄の介助、心身の清潔、服薬、吸引、吸入、抑制、安楽などの看護技術を実習により学ぶ。

「看護学実習Ⅱ」においては、保健管理における救急処置や看護、健康診断の技術を習得し、保健室管理から保健教育につながる指導ができる養護教諭の力量を養うことを目的に実習を中心に学ばせている。

2・3. 授業で行う養護教諭のフィジカルアセスメント

2・3・1. 救急保健管理と保健指導のためのフィジカルアセスメント

荒木田ら⁷⁾は、著書の中で養護教諭の行うフィジカルアセスメントの特徴をスクリーニングにおける情報の収集・把握及びアセスメントにおける判断と処置・指導であると述べている。またそれらは入室者カードによる問診、健康診断情報、子どもの特徴などから情報を整理し、処置・指導に役立て、病名をつける診断ではなく、軽度重度の判断、処置指導の方向の判断であると述べている。近年心身症や心理発達障害などの要因による対応も必要とされる。

養護教諭はさらに的確なフィジカルアセスメントを行うためには、問診（健康歴の聴取を含め）、視診、触診、聴診、打診のあらゆる技術を用いて行う身体査定であると述べている。そのため、専門知識、経験・技術、熟練、専門職としての態度を身につけておく必要がある。

表4に病院における診察の手順と、養護教諭が行うフィジカルアセスメントの対比を下記に示す。

表4 施設による看護アセスメント

	病院看護	学校看護
問診	現病歴・既往歴・薬剤歴・家族歴・生活歴・職業歴・渡航歴・動物飼育歴	心理的不安緊張、、精神的ストレス、睡眠、食事、ダイエット、学業、運動、友達、教員、生活習慣、随伴症状、現象
視診	身体全体、頭部、顔全体、腕、手、頸部、前胸部、項部、後胸部、背部、腹部、下肢、姿勢、歩行、平衡感覚	顔色、表情、出血、外傷、皮膚、変形、随伴症状
聴診	臓器の音、肺野、心臓領域、呼吸音、腸音	呼吸音、腸音
触診	毛髪、腕、手、前胸部、項部、後ろ胸部、背部、腹部、下肢	疼痛部位、周囲
打診	胸、腹	胸・腹
バイタル	体温、脈拍、血圧	体温、脈拍、血圧、呼吸

2・3・2. 保健室で行われているアセスメントの改善

保健室で行われている児童生徒の対応は救急処置として実施するための方法であり、病院で行われるものとは異なる。病院看護は⁸⁾あくまでも医師の診察について看護として介助することであり、学校看護の場面にある養護教諭は、アセスメント情報を査定しながら医療機関の搬送の緊急度をトリアージして、授業に参加継続できるのか、保健室でできる対応は何かを選択しその正確さが求められるところである。日ごろから体調不良や負傷により来室する児童生徒の健康歴や生活歴、日々の健康観察において健康情報を把握しているため、学校看護においては通常は健康度を若干低下した状態の対象者が多いため、来室時に改めて把握する内容は少ない状況もみられる。また、今日は心因性による来室も多く見られることから、児童生徒の状況によっては簡単な問診で対応を済ませることがあるが、これを丁寧な客観的な健診を加えながら対応を行うことで、児童生徒は安心して養護教諭に心身の苦痛を委ねることができると思われる。

しかしながら、日本学校保健会がおこなった「保健室利用状況に関する調査報告書、平成18年度調査結果」⁹⁾によると、保健室を訪れる児童生徒の人数は1日平均小学校41人、中学校38人、高等学校36人であり、小学校における利用者は平成13年度の調査に比べ有意に増加していた。さらにそのうち心に関する問題が4割以上を占めており、メンタルヘルスに関する問題が学校保健の中で主たる問題となっており、養護教諭は対応に多忙で、一人一人に時間をかけた対応が難しい状況にある。そのような中でも必要な養護診断の精度を高めるためには、子どもの状態把握をその場に応じ簡単にでき、客観性を持って行うことのできる脈拍や体温、血圧や呼吸数の測定と記録に加え、視診触診に「舌診」を行うことは道具も必要としないで苦痛も伴わず簡易に実行でき、健康情報の査定の一つに加えていくことは意味があると考えられる。

3. 舌診を取り入れた養護診断フィジカルアセスメント学習

3・1. 舌診によるフィジカルアセスメント授業内容

短期大学1年生の「看護学Ⅰ 5回目」の講義で、看護の基礎知識(バイタルサインとフィジカルアセスメント)を学び、6回目の授業で舌診について授業資料1で表した解説と、今後の授業の進め方について授業資料2を用い説明を行った。

また継続して講義内容の急性期症状の対応(発熱)、7回目同(呼吸困難・過呼吸)、8回目同(腹痛嘔吐)、3回の授業において授業開始前に座席隣同士でバイタルサインと舌診、脈診、生活、主訴の問診を取り合う演習を行った。

演習に先立ち、資料として代表的な舌の様子をカラーコピーしたものを配布し、説明を行い全員が行ったが、お互いに授業内容で舌を見せることに抵抗を示す学生はいなかったので授業をするうえで、配慮が必要な内容である。

3・2. 学生の授業実践

授業後提出された記録は13名分であり、うち4名(30.8%)が舌の観察において、舌尖の赤身のみとめ、観察から「瘀血」と判断された。さらに学生の生活調査からは睡眠不足であることや、2名は主訴として眠気、欠食、疲労も訴えていた。その他の9名は特別な舌の所見の記録はみられなかった。

表5 学生間のアセスメント結果

学生名	舌の状態	P 脈拍、T 体温(°C)	体調
A	正常	P=59、T=37.5	体調、食事、睡眠良好
B	正常	P=90、T=36.2	腰痛、朝食抜き、睡眠良好
C	瘀血	P=61、T=36.0	昼食抜き睡眠2時間
D	正常	P=72、T=36.2	疲れ、食事が取れない、ストレス
E	舌先が赤い、熱邪	P=68、T=36.5	元気、食事、睡眠良好
F	舌先が赤い、熱邪	P=76、T=37.4	寝不足、眠い、食事良好
G	舌先が赤い	P=86、T=36.9	睡眠4時間、眠い、食事良好
H	正常	P=68、T=36.8	少し疲れている、その他良好
I	正常	P=78、T=37.0	疲れている、食事睡眠良好
J	正常	P=60、T=37.0	睡眠不足、食事良好
K	正常	P=60、T=36.2	昼食抜き、睡眠良好
L	正常	P=59、T=36.8	朝食抜き、睡眠5時間、少し疲れ感
M	正常	P=66、T=36.0	睡眠6時間、食事良好

* 瘀血の病態

原因：内的、外的ストレス、打撲、運動不足、睡眠不足、過食、便秘、

所見：眼輪郭・顔面の色素沈着、肌荒れ、口唇・歯肉・舌の暗赤化、毛細血管拡張、皮下溢血、手掌紅斑、臍傍圧痛抵抗左・右・正中、回盲部・S状結腸部・季肋部圧痛・抵抗、痔疾、月経障害

<実施後の感想>

問診をすると精神面と食事の関係があることがわかった。

疲れているときは脈拍が遅くなる。

舌診を3回おこなったが、瘀血が1回みられた。体の部分で健康がわかり驚いた。

寝不足の時は舌に出ることがわかったし、脈拍も変わり驚いた。

友達がいつも眠いと言っているが、舌診は3回共赤かったので生活指導を行った。

健康観察は顔色や脈が主であると思っていたが、舌症状が現れることがわかった。

脈拍が日によって異なる。食事をとってない日は脈拍が少ない。舌の様子を知ったが、判断が難しい。

授業資料 1

<健康な舌>

- ・ 胃腸の状態、水分代謝の異常、血液の分布、心の状態、病気の進行・深さ、体質、カラダの寒熱性などによって影響されやすい。舌は「経路」という体内のエネルギー回路のようなもので、内臓に異常があるとそれに対応した舌の部分に変化が現れると言われている。
- ・ 正常な舌は、薄紅色で鮮やかなピンク色、苔はうっすらと白くついている、適度に潤っている、程よい大きさ厚さ、動きが自由である。

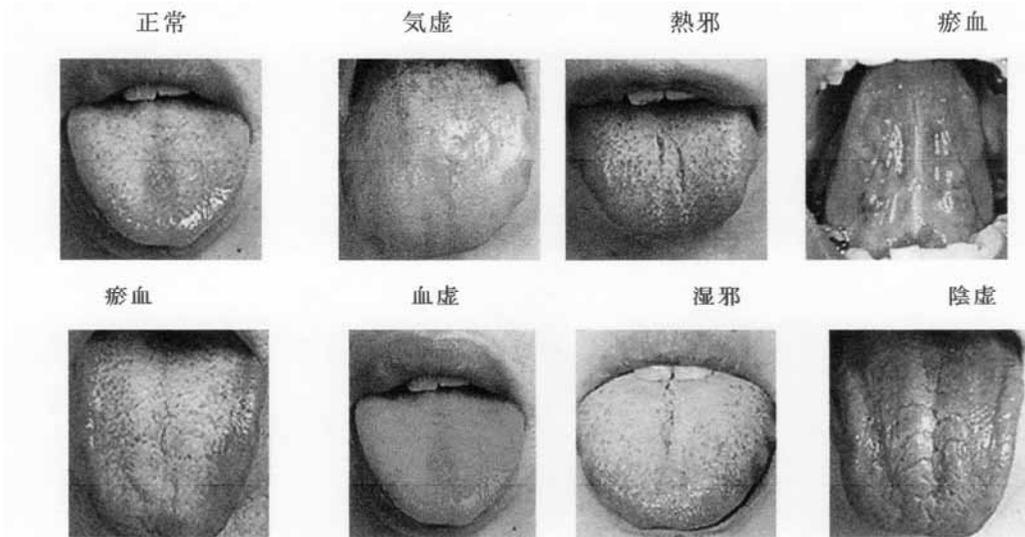


図 2 舌体の形態¹⁰⁾

気虚＝舌が厚く大きい・淵に歯型が対している、疲れやすい倦怠感がある、風邪を引きやすい、
胃腸が弱く下痢し易い⇒睡眠不足、朝食に注意

熱邪＝舌全体、舌先が赤い・舌に紅い斑点が出る・黄色い苔がつく、暑がり・便秘・ニキビ・
肌荒れ・高血圧⇒辛い食べもの脂の多い食べ物、アルコールは避ける

瘀血＝舌全体が紫がかっている、舌の裏の静脈が浮き上がり青くみえる、慢性的頭痛、肩こり、
足の静脈瘤、肌のくすみ、コレステロール、中性脂肪が多い⇒冷えとストレス注意、適度な運動と食事

血虚＝赤身のない薄色・厚みがない、眩暈立ちくらみ・乾燥肌・枝毛が多い・足が攣り易い・
爪が薄く割れ易い⇒ダイエット、夜更かし禁止、目の酷使注意、パソコン・テレビの見過ぎ注意

湿邪＝表面に苔が厚く付着し表面がべたべたした感じ、頭、体の疲労感、食後の胃もたれ、軟便、
浮腫み易い、肥り易い、眠気が取れない、湿度の高い日は調子が悪い⇒暴飲暴食注意・冷たい物やなま物、脂っぽい物は避ける、温かい飲み物を少量筒摂取する。

陰虚＝表面に亀裂・小さい、体の熱っぽさ、カサカサ肌、鼻・喉・唇の乾燥、寝汗⇒睡眠不足
注意、辛いものを食べない

授業資料 2

学生同士でアセスメントをしてみよう

- 1 保健室を訪れた児童と養護教諭
- 2 主訴を聞く 「どうしましたか」「いつから」「どこが」「どのように」
- 3 体温を測る
- 4 脈を取りながら呼吸数を測る
- 5 舌を診る
- 6 皮膚・顔色・観察する
- 7 生活について質問する（睡眠・食事・排便・運動・学校生活など）

実施日	舌の状態	P 脈拍（触れた感じ） T 体温	体調（主訴・睡眠・食事・排便・ 運動・学校生活など）

4. 考察

漢方では古くからその人の第1印象や声の調子、舌の状態、脈の感触など人の体の表面に現れる変化を細かく観察してどの部分に疾患があるのか、病気の進行具合などを判断して治療に役立ててきた。舌は全身の鏡とも言われている。

西洋医学において口腔の健診は舌圧子を使い扁桃の腫脹や、感染症の特異な口腔兆候を見るために行われているものが多いが、東洋医学（中医）においては心身の状態を把握する方法として取り入れられている。今日学校では心身症的な訴えによる保健室来室者が多く見られることから、児童生徒の対応に、舌を観察することは観察力や判断要素の精度を高めるために有効なことであると考えられる。さらに、保健室では対応する児童生徒においても、フィジカルアセスメントから自己の生活習慣による身体反応を感じられ、教育として健康の自己管理能力育成にも関わることが考えられる。

今回の授業におけるフィジカルアセスメントの一つとして演習として試みた舌診であり、結果報告数は少ない状況であるが、問診で把握した生活調査と舌診からわかるといわれる体の状

態が一致したことから、舌診は体調や生活を知るツールになりうる可能性が伺われた。

試行において授業参加者は健康な学生が多く、舌の所見は少ない結果となったと思われるが、学生に多い食事の偏りや、睡眠不足、便秘、運動不足などのサインの一つとして舌に現れる様子を観察記録として引き続き行い、自己の健康意識を高める教育にも応用できるのではないかとと思われる。時間を掛けて舌診の意義や方法を理解させ、観察や記入しやすい観察記録用紙を工夫し、学外実習において活用できるように、継続した取り組みによりフィジカルアセスメント力を高めたいと考える。

5. まとめ

2009年学校保健安全法の施行後、保健管理や健康教育、健康観察、健康相談、組織活動について書かれた関係書物の記載内容に変化がみられる。これらに共通するものは養護教諭の特質や専門性を生かした職務や役割の遂行を強く期待するものであると捉える。¹¹⁾

養護教諭の専門性とは何か、教員と学校看護教員としての両面を備えていることであり、児童生徒の健康の保持増進をコーディネートする力が求められている。2008年保健体育審議会答申では養護教諭養成段階での資質能力の形成として、現代的な健康課題に対応した看護学の履修内容の検討を行うことをあげている。三木らは¹²⁾、このことを学校教育としての看護の在り方の解釈をヘルスアセスメント等と述べている。

本年東京都の小学校における給食時に起こった食物アレルギー児童のアナフィラキシーショックによる死亡事故は、その対応において養護教諭や学校全職員の役割がどうあるべきか強く問いかける事件であった。その後アレルギーに対する対応において、いかなる状況下においても危機管理が行われるように、一層応急処置の精度を高める警鐘になったと思われる。全ての職員が、アレルギーに限らず心肺停止など様々な応急処置対応を冷静にいかに迅速にできるか、普段からの想定訓練や技術の研修が求められるところである。養護教諭は、学校における児童生徒の危機管理に対し、専門職として職員に応急処置対応を指導する立場にあることから、観察力やアセスメント力のレベルが養護教諭の職を支えていると言っても過言で無いと考える。これらのことから、専門的な職務をつかさどる養護教諭は、大学卒業後には経験的な知見ではなく、確かなエビデンスに則った養護診断ができるよう、アセスメント力をつけさせる教育は重要な取り組みと考える。

おわりに

短期大学入学後早々5月の授業において、学生にバイタルサインの演習に追加し実際行われたところ、体について興味を持って学ぶことができたようである。養護教諭の学校看護について学び始めた時期に真剣に脈拍・体温測定をおこない、舌診は自然に取り入れられた。東洋医学における脈診も今後観察できるようになると良いと考える。しかしながら、養護教諭が行う観察や養護診断には限界があることも忘れてはならないことである。

今後は記録カードの改善を行い、さらに詳しく観察できる内容となり、学校現場の舌診、脈診の実践化につながるような取り組みを続けていきたいと考えている。

引用文献

- 1) 寺澤捷年 (2011) 絵で見る和漢診療学, 医学書院.
- 2) 原敬二郎監修・松田和也編 (2004) 舌診カラーガイド, エンゼビア・ジャパン株式会社, 12~15.
- 3) 2) 同, エンゼビア・ジャパン株式会社, 16.
- 4) 2) 同, エンゼビア・ジャパン株式会社, 10.
- 5) 三木とみ子編 (2013) 四訂 養護概説, ぎょうせい, 25.
- 6) 鈴鹿短期大学講義概要 (2013).
- 7) 荒木田美香子他 (2012) 初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導一, 東山書房.
- 8) 診療時の看護, <http://www.geocities.co.jp/Berkeley/6019/sinsatuzinokango.html>.
- 9) 公益財団法人日本学校保健会 (2012) 学校保健の動向平成 24 年度版、健康管理の動向, 丸善出版株式会社, 75.
- 10) 舌診, <http://www.kitazono.jp/benkyo/tongue.htm>.
- 11) 大谷尚子・森田光子編 (2012) 養護教諭が行う健康相談, 東山書房.
- 12) 三木とみ子編 (2013) 四訂 養護概説, ぎょうせい, 19.

Physical Assessment for Health Check through Observation of Tongues by ‘Yogo Teacher’

Yasuko ONO

In duties to control the nursing of children, ‘Yogo teacher’ performs roles such as health management, health education, health consultation, school health room management and the health organization activity. In late years the case is found that the specialty in the correspondence of the first aid is required in the school, so it is considered that the specialists’ judgment in the health management is necessary still more.

The specialized judgment required for ‘Yogo teacher’ is the assessment for the main complaints, and the synthetic judgment by the ability of general observation for the object from the medical knowledge. As one of the observations using five senses which anyone can do without tools, there is health check through the tongue observation.

Zesshin, medical examination by observing the patients’ tongues, is the skill of traditional health check in the Oriental medicine. Generally speaking, the Oriental medicine focuses not only the disease but also the overall situation of the patient.

I had the opportunity to practice watching the tongues in the classes of nursing science. I had the medical interview for the lifestyle of students, and after all, my interviews were related to the results of Zesshin. Therefore it was demonstrated that Zesshin was one of the useful observation item. Hereafter in the dealings of the children in the school health room.

I will work on the practice of the physical assessment through Zesshin, which cover the mental and physical health condition of children.

Key Words : health check by Yogo teacher, health check through the tongue observation, health observation